

北軽井沢の5月上旬。長い冬を越えた庭木や林の木々が、ようやく一斉に目覚め始める季節です。4月のあいだ、まだ冷たい空気の中で固く閉ざされていたモミジの冬芽も、この頃になると春の進みとともに静かに動き出します。冬芽は、寒さや乾燥から内部を守るために何枚もの鱗片（りんぺん）に包まれています。その堅い殻を内側から押し広げるようにして、新しい命が姿を現しました。

写真は、まさにその一瞬です。幾重にも重なっていた芽鱗が割れ、その奥から淡い緑の若葉が顔をのぞかせています。まだ完全には開ききらない葉は、折りたたまれた小さな扇のようでもあり、これから広がる未来の形を内に秘めています。葉の裏側には白くやわらかな細毛がびっしりと見え、芽吹きたてならではの繊細さが感じられます。この細毛は、乾燥や急な寒さから柔らかな新芽を守る役割もあると考えられます。

北軽井沢では、春が来たとはいえ朝晩はまだ冷え込むことも少なくありません。そのため、この芽吹きの間には、冬の名残と春の勢いが同居しています。しかし、この姿もほんの数日だけ。やがて新芽はぐんぐん伸び、細毛をまとった若葉は開ききって、私たちがよく知るあの美しいモミジの葉の形になります。鋭く裂けた掌状の葉が風に揺れる頃、北軽井沢はようやく本格的な新緑の季節へと入っていくのです。

(2026年5月上旬／北軽井沢)

